

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：051.言語情報科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。

問題 I（共通問題）および問題 II—V（選択問題）のうちの任意の 2 題の計 3 題に解答しなさい。解答は日本語または英語で行い、日本語と英語以外の言語から例をあげるときにはグロスを付けること。

I. 【共通問題】以下の A-L の中から 4 つを選び、それぞれについて具体例を挙げて説明しなさい。なお、問題 I への解答全体を解答用紙 1 枚に収めること。

- A) 痕跡 (copy)
- B) 補部 (complement)
- C) ワークスペース (workspace)
- D) 構文の多義性 (constructional polysemy)
- E) 中間態 (middle voice)
- F) 消極的ポライトネス (negative politeness)
- G) フレーム (frame)
- H) 話し手の意味 (speaker meaning)
- I) 量化 (quantification)
- J) 参与枠組み (participation framework)
- K) 談話機能言語学 (discourse-functional linguistics)
- L) 他者開始修復 (other-initiated repair)

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：051.言語情報科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II ……）ごとに別の解答用紙を用いること。

II. 【選択問題】以下の例文を読み、設問に答えなさい。

- (1) I saw the very large elephant with the long trunk.
- (2) I saw the very tiny book in the store.
- (3) 私は綺麗な家の写真を見ました。

問1. (1)~(3) の可能な意味を示す樹形図を、Xバー理論に基づき、それぞれ2つずつ書きなさい。三角形を使用しないで、構造をすべて示すこと。

問2. (1)~(3) の3つの文にみられる統語構造および多義性について説明しなさい。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：051.言語情報科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。

Ⅲ. 【選択問題】以下の英文を読み、設問に答えなさい。

出典：John Lyons. 1997. *Semantics, vol.1.*
Cambridge University Press.より改変して引用。

- 問 1. 下線部 (1) を日本語に訳しなさい。
- 問 2. 10 の例文すべてで mean あるいは meaning の意味は互いに異なっていると言えるか。それとも、いくつかの例文が意味的に類似したクラスタを構成していると考えられるか。自身の見解を述べなさい。
- 問 3. 動詞 mean と名詞 meaning でどのような意味の違いがあると考えられるか、自身の見解を述べなさい。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：051.言語情報科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問（ローマ数字の I、II……）ごとに別の解答用紙を用いること。

IV. 【選択問題】以下の英文を読み、設問に答えなさい。

出典：Kövecses, Zoltán (2019) "Some consequences of a multi-level view of metaphor" in Ignasi Navarro I Ferrando (ed.) *Current Approaches to Metaphor Analysis in Discourse*, De Gruyter Mouton (Kindle版) より改変して引用。

- 問 1. 下線部 (1) を日本語に訳しなさい。
- 問 2. 下線部 (1) で用いられている safety net の解釈について、Lakoff はどのような分析をしているか、わかりやすく解説しなさい。
- 問 3. 下線部 (1) で用いられている safety net はなぜ superficial metaphor とみなされるのか、deep metaphor と対比させ、説明しなさい。
- 問 4. 下線部 (1) で用いられている 'hammock' は、この文脈ではどのような比喩として解釈されるか。また、発話者 (Phil Gramm) はなぜここで 'hammock' という表現を用いたと考えられるか。自身の分析を示しなさい。

令和 8 年度 第 2 回 京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学試験問題

専門試験

科目名：051.言語情報科学

(注意) 複数の設問がある場合、解答は、設問 (ローマ数字の I、II……) ごとに別の解答用紙を用いること。

V. 【選択問題】以下の会話文字起こしを読み、設問に答えなさい。

((細川から磯貝に折り返した通話の冒頭。二人は研究者で、研究会のために細川の自宅近くにある「サンテラス京都」という施設を借りようとしている))

- 1 細川： あ:もしもしなんか、お電話、いただいたみたいですけど。
2 (0.5)
3 磯貝： あ:いえいえ。(0.2) すいません。 .hh (.) あのさあ、
4 細川： >はいはい<。
5 (0.5)
6 磯貝： え:つと、(1.3) サンテラス京都の話なんですけれど↓:、
7 細川： >はいはい<。
8 (2.0)
9 磯貝： なんか予約したんだ<けれど↓:、>、
10 細川： はあ。
11 (0.9)
12 磯貝： .hh
13 (2.2)
14 磯貝： で: .h (0.8) >なんか<一週間以内に来て。
15 細川： うんうん。
16 (1.0)
17 磯貝： 申請書出して欲しいみたいな。
18 細川： はい。
19 (2.0)
20 細川： 行きますよ。
21 磯貝： で細川先生が近いんじゃないかと[ゆう。]
22 細川： [>うんうん.] あ:行きます行きます。<
23 (1.1)
24 磯貝： (感じで。)
25 細川： はい。

- 問1. 21 行目から 24 行目にかけての発話「で細川先生が近いんじゃないかとゆう感じで」にグロスを付けなさい (発話を語ごとに分割し、品詞ないし文法範疇を記しなさい)。
問2. 会話事例に含まれる磯貝の発話の中で、「ターン構成単位 (TCU) の完了可能点」を 3 箇所指摘し、それぞれがなぜそのように認識できるのか説明しなさい。
問3. 「間接言語行為 (indirect speech act)」の定義を述べ、この会話事例から具体例を 1 つ見つけなさい。
問4. E. Schegloff は 1996 年の論文*の中で “Because what it will take for a turn’s work to be possibly done can vary with its position in a sequence (e.g., the question vs. the answer turn, the first assessment or the response to it, etc.), the grammar can also vary, and with it, *what can constitute possible completion.*” (p. 89; 強調は原文) と述べている。これはどういう意味か、会話事例の磯貝の発話を例として参照しながら説明しなさい。

[*Schegloff, E. A. (1996) “Turn organization: One intersection of grammar and interaction,” in E. Ochs, E. A. Schegloff and S. Thompson (eds.), *Interaction and Grammar*, Cambridge University Press, pp. 52--133.]